

「私は園児にどんな影響を与えているでしょう」

水 原 泰 介

教育に従事している人々にとつて心配なことの一つは「自分のやつていることが、果して効果をあげているだろうか」「自分の子供達の扱い方が子供達にどのような影響を与えているだろうか」という疑問でしよう。

幼稚園の先生の指導がどのような効果の子供達に与えているかを、はつきりした形で、とらえることが出来れば、先生が自分の指導の仕方を反省し、これに改善を加えていく上に於て、得るところが非常に大きいでしょう。

逆にこれがわからない場合には、強く自己反省をする先生は、「一体これではよいのであろうか」と不安がり、また、無反省な先生は、「大体こんなものだろう」と自己満足におちいり改善の努力がなされません。また、子供の扱い方を改善する努力を続けても、その効果がわからなければ、まるで暗中进行するようなものであり、張り合いがありません。

我々の教育技術の上達、進歩、という点

から見ても、教育の効果がどのようなものであったかを知ることが非常に有益です。水泳や跳躍の練習をする場合に、タイムや跳躍距離を測り、「それを加えてゆく方が、タイムや跳躍距離を全然測らないで練習を繰り返すのよりは、上達、進歩が早いでしょう。これと同様に、私達の子供の扱い方の効果(子供への影響)がどのようなものであるかを、正確に知り得る場合ほど速いでしょう。

幼稚園教育の色々の面への影響の中、或るものについては、このような効果測定乃至評価が行われているようです。併しこのような測定や評価をもっと、もつと色々な事項についても実施するようになることが望ましいと思います。

ここで私は、幼稚園生活に於ける社会性の発達についての客観的な測定の一つの試みを述べて御参考に使いたいと思います。社会性を伸ばすことは、幼稚園教育がめざしている主要目標の一つです。ところが幼稚園の先生達は、御自分の子供達の扱い

方が、子供達の社会性の発達にどれだけの効果をもっているかを、はっきりした形ではとらえる試みをなさず居られることは比較的少ないようです。

私達の研究室で、田中信子さん（現在は東洋英和女学院小学部在職）は、自由遊びの場面でグループ遊びが多いか独り遊びが多いかについて、三つの幼稚園を比較しました。田中さんは、グループ遊びの多い少いを調べることによつて子供達の社会性の発達を知る事が出来ると考えたのです。グループ遊びの多い、少いを調べる方法としては、自由遊びの場面でクラスの全員を広く見渡して、いてそこに発生するグループ遊びを全部記録してゆく方法がとられることが多いようです。この方法は少人数のクラスで、しかも遊び場が余り広くない場合とか、観察者の数が多い場合には、うまくゆきません。

田中さんの場合には、このような条件がみたされなかつたものですから、次の様な

方法を用いました。

一クラスから八人の子供を選びます。この場合特徴をそなえた子供を選ぶというのではなしに、全く、ランダムに選び出します。その一人づつを一日一回五分間づつ六日間観察します。この観察では、① その子供がグループ遊びの中に入っているか、その入っている時間は、どの位の長さか、② グループ遊びではなくて、独りで遊んでいるか、その時間はどの位の長さか、③ 保育者と一緒に遊んでいるか、その時間はどの位の長さか、を記録します。

この方法を用いて東京都内の三つの幼稚園の二年保育児を調べました。

その結果をまとめてみますと、第1表の様になります。

この表の中の組織的グループ遊びというのは、(1)お互の行動の間に関連があること(2)皆が同じ行動をするのではなくて、各々の受けもつ役割の区別があること、の二つの特徴が認められるようなグループ遊びで、例えばままごと、電車ごっこ、等。

第1表 (8人中、夫々の遊び方をしたものが何人いるかを示す。)

遊 び	グループ遊び				独り遊び		保姆と緒		
	組織的		半組織的		長	短	長	短	
継続時間	長	短	長	短	長	短	長	短	
幼稚園	A	3	0	4	3	6	8	2	5
	B	3	1	5	8	7	7	2	1
	C	8	0	8	2	4	5	0	0

半組織的なグループ遊びと云うのは、この(1)(2)の中、何れか一方の特徴のみが認められるもので、例えば砂場で2人で山を作っている場合、第1表は各幼稚園の観察された子供達(8人ずつ)の中で、幾人が夫々の種類の遊びを行ったかを示したものです。例えば、A幼稚園の8人中、比較的長続きのする組織的グループ遊びを行った子供は、3人です。

これに対してC幼稚園では、八人の全部がこれを行つています。即ち六日間観察している間に一度も組織的グループ遊び(長続き)を行はなかつた子供がA幼稚園では八人中五人います。C幼稚園の八人の中には、このような子供は一人もいません。

この結果をみると、C幼稚園の子供達が他の幼稚園の子供達よりも、組織的グループ遊びが多く、且つグループ遊びが長時間継続していることがわかります。従つて少くとも、この点に於てはC幼稚園の子供が社会性が最も発達していると考えられましよう。

このような社会性の発達が幼稚園の先生の子供の扱い方によって影響を受けるだろうと云うことは、容易に想像が付きます。田中さんは、先生の子供の扱い方も観察しています。この観察も自由遊びの時間に一日一回、十分間の割で、六日間にわたって行いました。この結果によりますと、C幼稚園の先生の子供の扱い方は、子供の自然的行動を促進し、子供の意思を出来るだけ

生かしてやる傾向が大であることが認められました。これに対してA及びB幼稚園の先生は、子供の自発性を促進すると云うよりもむしろ、上から一方的に「教え導く」「指図する」という傾向が大であることが認められました。

また、先生の園児への接触の頻度を見ると、第2表に示しのように、A及びB幼稚園の先生は、C幼稚園の先生に較べて、接触頻度が遙かに多くなつていました。

A	248
B	174
C	101

第2表 先生の
子供への接触
頻度(六日
間の合計)

AやBの幼稚園の先生は、一生懸命に子供達の「世話」をやき、子供達も先生の近くに寄つて来ます。てのA、Bの先生達は「自分はこんなに労をいとわず、子供達を見守り、世話をし、導いている」と考えながら保育を続けておられるでしょう。ところが、この懸命の努力が、もたらした効果は、前述のような社会性の未発達となつて

おります。これでは労多くして、効が少いということになりましよう。

私達の教育が子供に及ぼす影響を、適切な方法で調べることをしていないと、このような望ましくない結果になっていることに気づかぬまま、努力を続けることになるでしょう。ここに述べましたのは先生の子供達の扱い方が社会性の発達に及ぼす影響を調べた一例ですが、このような教育の効果の測定や評価が多方面にわたつて実施されるようになることは幼稚園教育を、一歩前進させることに役立つでしょう。なお、今後の幼稚園の先生の養成や講習会等に於て、この種の教育効果の調査法の指導が一層重視されるようになることを望みます。

(お茶の水女子大学助教)

× × ×